

小幡観音寺仁王門のしめ縄

## 新年のあいさつ

村長 磯山伸知

2・3

## 中国農業を視察

北浦村鋤頭会議

4・5

## ドイツ研修報告

第4次ドイツ派遣団

6~9

|              |             |    |
|--------------|-------------|----|
| 虹工房 .....    | 北浦多菜ブランド(4) | 10 |
| 生涯学習 .....   | 女たちの言葉      | 11 |
| さわやか健康 ..... | 緑黄色野菜       | 12 |
| 民生委員改選 ..... | 民生委員・児童委員改選 | 13 |
| おしらせ .....   | 体育施設利用について  | 14 |



# 大いなる夢咲かせます

と・北浦」を基本目標に施策を進めてまいりました。中でも重点プロジェクトの「ふれあいの郷」も完成し、新総合計画も平成七年度末をもって終了することとなりました。

この間、本村をとりまく環境も年々進み、東関道水戸線の延伸計画、主要地方道土浦大洋線の国道昇格など、今後村の土地利用に大きな影響を与えることが予想されることから、全村を都市計画区域に編入、平成三年に策定した「後期基本計画」では「若者が定着できる村づくり」を目指し、「北浦複合団地構想」を策定し、実現に向けて努力をしているところであります。

このように目まぐるしく変わる社会情勢と、多様化したニーズに対応するため、平成八年度から平成十七年度までの十年間とする二十一世紀に向けた新しい長期総合計画策定のため、現在作業を進めているところでございます。

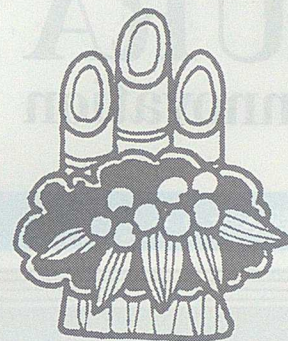
この計画策定にあたっては、これまで村民の皆さまから様々なご意見やら提言をいただきました。これらを十分生かし、自然に恵まれたこの「郷土」の伝統と文化を守りながらも、新しい時代に対応した輝くむらづくりを進めて行く所存でございます。

村民の皆さまには、迎えた本年もご健勝でありますことをご祈念申し上げますとともに、引き続き村政に對しまして、ご支援ご協力をお願いいたしまして、年頭のごあいさつとさせていただきます。



**身近** な動物だけに、こ  
とわざにもしばしば登場します。弱者でも追い詰められると強者に逆襲するという意味の「窮鼠猫を噛む」や、前ぶれの騒ぎばかり大きくて、実際の結果は極めて小さいことの例えである「泰山鳴動して鼠一匹」などは、よく知られています。「頭の黒い鼠」とは、頭髪の黒い人間をネズミになぞらえて、物を盗む人のことです。「鼠の嫁入り」は、あれこれと選んでみても、結局は変わりばえしないところに落ち着くという例えです。

さて、子年は十二支のトップ。昨年は、天災や事件の多い暗い年でしたが、今年は気分一新して、いい年になりますように。



村 長  
磯 山 伸 知

謹んで新年のごあいさつを申し上げます。皆さんには、日頃から村政に対しご協力とご理解をいただき心から御礼申し上げます。

昨年は、正月早々阪神・淡路を襲った大震災によって夢を破られ、自然災害の恐ろしさを改めて認識させられました。その余韻さめやらぬ間に次々と暴きだされる宗教集団による犯罪等によって、内外を震撼させた幕開けの年でもございました。

また、銃による犯罪の増加、依然としてやまない子どものいじめ問題、金融機関の不良債権に係わる不信感、そして長引く経済不況など社会情勢は不安定要素を解消出来ないまま過ぎた年でもございました。

一方、北浦村では昭和61年に策定した「北浦村新総合計画」に基づき、「ふれあいと活力に満ちたふるさ

## 今年は子年

### 今年

は子年。昔は夜になると、ネズミが天井裏を走り回り、チュウチュウと鳴く声が聞こえたりしたものです。最近には純粋な日本家屋が減ってきているためか、家屋の構造が変わってきただけで、都会では天井裏を走り回ったり鳴いたりしているネズミは、少なくなってきたのではないのでしょうか。

### ネズミ

は、数も種類も多く、ほ乳類の約半数、千七百種を占めるといわれています。しかも、ほぼ全世界に分布しています。ネズミ算という言葉もあるように、繁殖力がおう盛で、一回に二十匹の子を生む種類もあります。

人間は、昔からネズミの害に悩まされています。ノネズミは農作物を荒らし、牧草地の草の根を食べたりします。イエネズミは貯蔵食糧を食べるときには電線やガス管をかじって人間を困らせたりします。また、下水道などの不衛生な



# 中国農業を視察

## 北浦村鉄頭会議

### 時宣を得た中国視察

農業振興センター長 岡野和多利

農業を取り巻く情勢は一層厳しく、ガット・ウルグアイラウンドの決着で、昨年四月からすべての農畜産物は自由化され、農業は正に国際化時代を迎えました。中でも野菜の輸入量は、年々増加の一途をたどり、国内消費野菜年間一人当たり一〇五kgのうち一二％が輸入野菜に依存しているのが実態です。この原因は国内野菜の不作とか高値、円高、長引く不況から安いものへの価格破壊などと併せて、消費者が輸入野菜に抵抗がなくなってきた結果からと思われます。

中国は今、改革、開放以来外資を導入して先富論に従い、従来の均衡分布、均衡発展のスローガンが全廃されて発展できるところから発展して行くという政策の下で、地域格差、つまり沿海と内海、都市と農村といった地域格差と所得差、即ち貧富差がますます拡大しているといわれています。また、国策で外貨を獲得するため貿易を盛んにして農産物を輸出してきたが、国内の人口過剰、所得の向上による生活レベルのアップ等から見て、将来農産物を輸出するほどの余裕はなく、むしろ近い将来、輸入に依存する国家ではないかと

が、換金作物として僅かに生産した野菜がまとまって輸入されているが、これも過渡期のものと思われまふ。

改めて国内野菜の良さが消費者にわかってもらえるよう、生産者は味で勝負するならば、輸入野菜は必ずしも怖くないと思ひ、今回の中国農業の視察は実に有意義でありました。

### 参加者

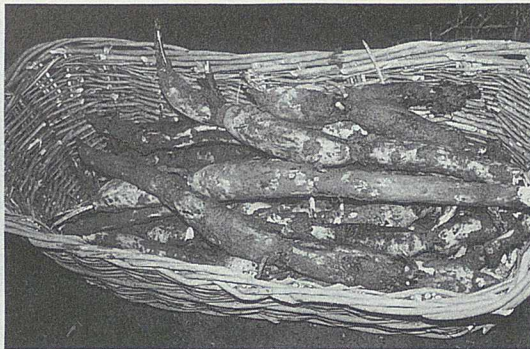
|            |                   |
|------------|-------------------|
| 関根 一男 (吉川) | 前田 鉄夫 (行戸)        |
| 方波 見康 (〃)  | 前田 進 (〃)          |
| 方波 見武秋 (〃) | 堀 吉雄 (〃)          |
| 方波 見忠雄 (〃) | 齊藤 辰雄 (〃)         |
| 大平 和久 (〃)  | 加納 伸治 (小幡)        |
| 高橋 勲 (繁昌)  | 井川 剛 (両宿)         |
| 横瀬 忠美 (山田) | 清水 量 (内宿)         |
| 溝口 喜助 (〃)  | 横田 富成 (小貫)        |
| 前田 恵助 (行戸) | 有馬 正利 (〃)         |
| 磯山 茂男 (〃)  | 岡野和多利 (農業振興センター長) |
| 齊藤 守 (〃)   | 松本 光一 (農業振興センター)  |
| 堀 久作 (〃)   |                   |



輸出国農業の実態をいくらかでも

知っていることが大事で、今回の中国視察は正に時宣を得たものでした。

## 済南市のレンコン



ここで生産されるレンコンの大半は日本に輸出しています。10アール当たり約3000kgの収量があります。掘り取りは水掘りではなく、水を切りスコップを使い手作業で行います。ここのレンコンは非常に柔らかで、色も味もいいというが、視察したとき掘られたレンコンは見た目は良くなかった。値段は1kg当たり日本円で約16円と安い市場では40円～50円、正月には80円まで上がる。

## 寿光市青果市場



面積は30万㎡。中国一の規模を誇る。年中、新鮮な野菜がそろえられており、年間を通じて取り引きされる野菜が100種類以上もある。野菜の他に、家庭用品、海産物、ガソリンなどの販売も行っている。毎日の野菜取引量は3000tを超える。保存庫が五基あり、2000tの野菜が貯蔵できる。卸売会社は78社ある。他にホテル、銀行、加工工場など255社が入っている。中国では、まだまだ野菜が不足で、生産過剰は起こらない。野菜を出荷しても採算が合わないということはない。

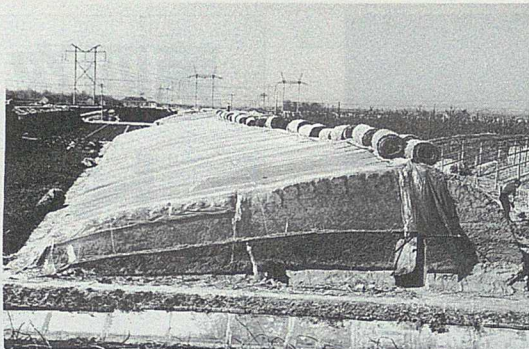
### 尊敬し合える

### 隣国の友人

北浦村鉄頭会議会長

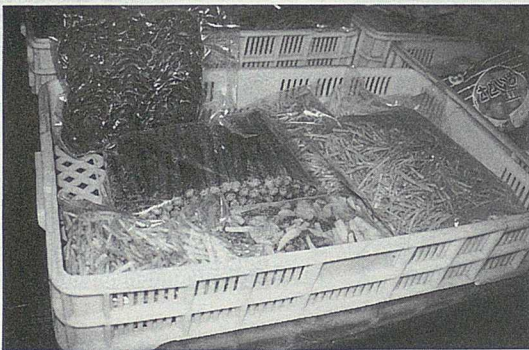
横田 富成

## 寿光市ビニールハウス団地



20万棟のビニールハウス団地がある。真冬のマイナス10℃でも生産できる。ここで100種類以上の野菜が生産される。一番多く生産されるのはキュウリで、その他、トマト、エンドウ豆、ホウレンソウ、チンゲンサイが主なものです。中国のチンゲンサイは日本のものより大きい。ビニールハウス1棟(400㎡)建てるのに約5000元(約65,000円)かかる。ビニールハウスの側面はレンガを組み、壁土を重ねてある。ハウスの上にある「こも」は防寒用で、夕方に下ろされる。

## 菜陽市野菜加工工場



工場の敷地面積は10.1ha、従業員850人で、日本などに年間8000tの加工野菜を輸出している。工場内は大変きれいに整備されており、野菜もきれいで、日本のものとの違いは見当たらなかった。里芋、ほうれん草、ニンジン、アスパラガスなど20種類以上の野菜が冷凍され真空パックされている。中にはスーパーでよくみかけるミックス野菜の商品もあった。手間いらずのものを要求しているのは日本人である。今後ますます冷凍技術が進むと日本の野菜農家は厳しくなるのではないか。

現在、中国の開発は南から北へ、沿岸から内陸へ、ゆっくりと進んでいるようです。「急激な変化は望まない」とガイドは話していましたが、なるほど中国ではゆっくりとした時間が流れているようです。農業も、生活もすべてそうです。そんな中国が開発の中どう変わって行くのか、また機会があればもう一度行って確かめてみたいと感じました。

この貴重な視察の機会を与えて下さった村、そしてご指導をいただいた関係機関の皆さんにお礼を申し上げます。

- 11月9日 北浦村 — 上海 (泊)
- 11月10日 済南市 (レンコン圃場を視察) — 維坊市 (泊)
- 11月11日 済南市 (青果市場・ビニールハウス団地視察) 菜陽市 (野菜加工工場視察) — 青島市 (泊)
- 11月12日 青島空港 — 北浦村



# 第四次 ドイツ派遣団報告 1



派遣団員

|             |           |
|-------------|-----------|
| 久保博光(小貫)    | 石橋洋子(北岡)  |
| 石上雅崇(山田)    | 山野恵美子(山田) |
| 小林広(山田)     | 河野りえ子(内宿) |
| 五十野猛(次木)    | 松信多賀子(繁昌) |
| 谷川達郎(北浦村役場) |           |

北浦国際交流協会では、平成三年度よりドイツ連邦共和国連合行政体ウィルゲスへ派遣団を送っています。平成六年度には、ウィルゲス市長プファイル氏も、北浦村を訪れ、年々友好関係も深まりつつあります。今回は第四次派遣団として、平成七年十一月二十日から二十七日までの八日間の日程で、ウィルゲスでの交流・研修を行ってきました。団員は総勢九名で、今回は主に環境問題をテーマにした研修でした。団員からの報告を三回程度に分けて紹介します。

## ドイツにおける環境保護

石上雅崇

今回のプログラムの中心となっているのは、ドイツにおけるゴミ処理およびゴミのリサイクルの状況です。このテーマは、一九九四年にプファイル市長夫妻が北浦村を訪問された際に、市長自身より第四次派遣団のプログラムとして提案されていたものですが、参加メンバーの了解を得て、メインテーマに据えることになりました。

十一月二十日、ルフトハンザ七一便フランクフルト行きへ乗り込みました。今回は午前十時四十五分と、例年に比べてかなり早い出発となっていますが、時差と到着後の体調のことを考えると、これが結果的には良かったように思います。

十一月二十一日、フランクフルトのホテルに荷物を降ろし、庁舎でプファイル市長からの歓迎の挨拶や、磯山村長、並びに北浦国際交流協会の新会長である小

沢会長からの、親書の交換などが行われた後は、恒例のケッペルの山小屋で、市長の招待による昼食会となりました。昼食後は、第一次の派遣団も訪問したことのあるランスバツハールバウムバツハにある市民ホールを見学。今回は、年間プログラムの作成や予算などについての具体的な運営方法の説明を受けました。その後はこれも恒例となっている、モーゲンドルフのエルフィース・シュルシュトッフの工房を見学、お土産選びに頭を悩ます団員たちでした。

夕食は、ラインラント・プファルツ州議員のシュミット女史らと交えた夕食会で、ドイツの女性の生活状況などに関する懇談会が行われました。シュミット女史からは、ドイツの社会の変化に対応して、生活者としての女性の権利がいかに獲得されてきたかについての話がありま

した。さすがに州の議会議員ということもあり、女史の演説調に団員が多少気押された感じがあるのは残念でした。

十一月二十二日は十時前にホテルを出発、ボーデンという地区にあるベラースハイム社を訪問しました。この会社では行政(郡)と民間の業者が一体となって、主にゴミの分別とリサイクル用の事前処理を実際に行うとともに、効率的かつ安全性の高いゴミ処理の方法についての検討もなされています。

まずは事務所において、この地域のゴミ処理全般について、そして個別のゴミの具体的処理方法などについての説明がありました。その際に、特に強調されていたのは、ゴミの問題を含む環境保護は、お金の掛かるものなのだという認識をはっきり持たねばならないということ。そして更には、環境についての啓蒙活動から具体的な処理までの、トータルなシス



テムの存在が不可欠であるということでした。そして、ドイツで現在ゴミや環境の問題に関わる人々に共通の思いが、人間にとって資源であり環境であるこの地球を、これ以上にひどい状態にして子孫に渡すことはできないという認識にあることが、繰り返し強調されました。

事務所での長い質疑の後、実際の分別作業からリサイクル用の事前処理を見学して、御世話してくださったスタッフ全員と近くのレストランで昼食をとり、午後からはモイトという場所にあるゴミ処理場を見学しました。これも郡の施設ですが、ここではあらゆる処理の後に、燃やして廃棄するしかないゴミの埋め立てが行われています。

しかし、この埋め立て方法が徹底しています。埋め立て地の地盤は、何層からも成る保護層を設け、雨水がゴミの層を浸透してゆく際に有害物質を吸収して地下水へ悪影響を与えるのを防いでいます。また雨水とゴミが反応して発生するメタンガスは、回収されて発電用ジェネレーターの燃料となります。そして溜まった雨水も、回収され浄化装置を通した後に川へと放流されます。そしてこの埋め立て地は、最終的には緑地となつてゆくわけです。

十一月二十三日、この日はシュタウトという地区の新開発地域を視察した後「アオバツハ」と呼ばれる浄水場の視察に向かいました。この浄水場では、基本

的には化学薬品などは用いず、土中のバクテリアの分解能力を利用した浄化方法によって、約一万二千戸分の排水と雨水の浄化が行われています。前日もそうですが、日本という経済的・技術的に発達した国を考えた場合、ウェスターヴァルト郡の担当官は、彼らの設備と同等のものが日本にも当然あるとイメージしているようです。そしてこれもまた当然のように、日本の状況についての質問が出てきます。私たちは、日本そして北浦村の自然条件から政治・行政のシステムにいたるまで、考えられる限りの事情を思い浮かべて、議論せざるを得ませんでした。

この日の午後は自由時間となり、比較的大きな町であるコブレンツに出掛けた団員は、昼食後のひとときを買い物をして楽しんでいました。

十一月二十四日の午前中は特別な研修プログラムはなく、ズーアースハーシの陶土採掘博物館およびヘルグレンツハオゼンの陶器博物館を見学しました。午後は、古くからの街並みの残るリンブルクへ向かい、街の歴史や街並みの保護などについて、ガイド付きの解説を受けました。

ウィルゲス最終日となるこの日、夕食は例年通りお別れの小さなパーティーを開かせて頂きました。今年も夜の八時より議会の話し合いがあるにも関わらず出席してくださったプファイル市長は、連合行政体ウィルゲスと北浦村で行われて



いる交流こそが、国際的な地域交流のあるべき姿であると高く評価している旨を述べられた後、仮に交流の形態に変化があろうとも、今後も北浦村および北浦国際交流協会に対しての協力を惜しまないことを約束して下さいました。

十一月二十五日、プファイル市長みずから運転するバスでリンブルクへ送って頂いた一行は、列車で小旅行の目的地であるマールブルクへ向かいました。研修の重圧からも開放され、七十年以上も営業している有名な喫茶店「フェッター」から眺めた典型的なドイツの街、そして古城そばの喫茶店からのマールブルク夜景と、ほっとしたような観光気分とともに、残り少ないドイツでの時間に、それぞれに思いを巡らせていた団員たちでした。





今回の研修旅行は私にとっては初めての海外旅行でした。そのためあつてか、ドイツで過ごす日々の中で私が目にするもの耳にするものは、とても新鮮で、充実した時間を送ることができました。

ドイツでは環境対策を中心とした研修だったため、私の中で深く印象に残っているのも環境についての事柄です。そのことについて少し書かせてください。

近年では、日本においても環境保護に対する意識は高まっているようです。「リサイクル」とか「地球にやさしく」とかいう言葉を耳にすることが多くなっているのもその表れではないかと思えます。しかし実際のところ、環境保護のための活動は、私たちの周りでは具体的にどの

たのが、今回のドイツ連邦共和国連合行政体ウィルゲスの訪問にありました。

秋も終わりに差しかかり、日増しに寒さが加わる頃、派遣団一行はドイツへ向かいました。初冬とはいえ、日本とは比べものにならないほど寒さは厳しく、吹き込む風にドイツの長く暗い冬がすでに始まっているのを感じました。時々、木々と光が作り出す車窓からの街並や風景は目を惹かせてくれます。自然との調和を重視した住まい、真っ白な壁にタイルレッドカラーをした化粧レンガの屋根瓦など、ヨーロッパ独特のカラーリングが統一感のある美しさを醸し出していました。街並もさることながら、ゆるやかな斜面が広がる田園地帯、浅緑に覆われた大地によってさらに広大さが増して見えます。このような穏やかな風景とは対照的に、どっしりとした生命力に溢れている巨木たち、美しい森が広がる丘陵地帯はまさに西の森の象徴と言えるでしょう。

この法律を住民が納得し、行政と一丸となって環境問題に取り組んでいます。今回の研修の目的でもあるゴミのリサイクル問題については、経済の循環を考え、『ゴミをつくらない、もし出る場合は再利用』という目的を持って取り組んでいます。派遣団は、会社グループで行っているゴミ処理場を訪問しました。町の中心から離れた郊外に広々とした施設が設けられていました。事務棟は白い建物で、玄関や窓にはブルーの縁取りをきかせ、清潔感を漂わせています。工場の中を見回ると、働く人たちは比較的若く、ベルトコンベアから流れてくるゴミの分別におおわれていました。資源ゴミ処理の仕組みをはじめ、使用目的別に区分されたゴミを見て、混ぜればただのゴミにすぎないが、分別すれば再資源化につながるということを認識しました。化学薬品、包装材、家具類などは日時などを設定したうえで回収を行っています。その他、生ゴミなどはコンポストに入れ肥料にしたり、土にかえすなど有効に利用され、そこで生じたガスも熱利用されています。中でも、建築の際に出た土などで汚染されているものとは、ゴミと一緒に処理されるのではなく、庭づくりや粘土を採掘した穴を埋めるのに再利用されているそうです。



## 環境にやさしいまち 北浦を目指して

山野恵美子

人類をとりまく自然環境が、都市化の進んだ今日、破壊されつつあります。とにかく無機質の造形物が多い都市生活に潤いを与えてくれているものに、緑の植物が上げられます。植物は様々な生き物を支えてくれています。植物がなければ人間の生活が成り立たないといっても過言ではないほど重要な存在なのです。森林の持つ美しさは単に見掛けだけのものではなく、我々が生きていく上で強い原動力になっています。私が生まれ育った地、「北浦」は、幸いにも緑に恵まれ、豊水をたたえた北浦湖があります。水郷地帯を見わたせ、四季折々を感じ取ることもできる環境にあります。このような自然の偉大さをあらためて考えさせられ

たのが、今回のドイツ連邦共和国連合行政体ウィルゲスの訪問にありました。

秋も終わりに差しかかり、日増しに寒さが加わる頃、派遣団一行はドイツへ向かいました。初冬とはいえ、日本とは比べものにならないほど寒さは厳しく、吹き込む風にドイツの長く暗い冬がすでに始まっているのを感じました。時々、木々と光が作り出す車窓からの街並や風景は目を惹かせてくれます。自然との調和を重視した住まい、真っ白な壁にタイルレッドカラーをした化粧レンガの屋根瓦など、ヨーロッパ独特のカラーリングが統一感のある美しさを醸し出していました。街並もさることながら、ゆるやかな斜面が広がる田園地帯、浅緑に覆われた大地によってさらに広大さが増して見えます。このような穏やかな風景とは対照的に、どっしりとした生命力に溢れている巨木たち、美しい森が広がる丘陵地帯はまさに西の森の象徴と言えるでしょう。

これらのきちんと整備された街並や自然がみられる背景には、行政側の自然環境への配慮がきちんとされていることが上げられます。ドイツでは限りある自然を保護するために法律が定められており、この法律を住民が納得し、行政と一丸となって環境問題に取り組んでいます。今回の研修の目的でもあるゴミのリサイクル問題については、経済の循環を考え、『ゴミをつくらない、もし出る場合は再利用』という目的を持って取り組んでいます。派遣団は、会社グループで行っているゴミ処理場を訪問しました。町の中心から離れた郊外に広々とした施設が設けられていました。事務棟は白い建物で、玄関や窓にはブルーの縁取りをきかせ、清潔感を漂わせています。工場の中を見回ると、働く人たちは比較的若く、ベルトコンベアから流れてくるゴミの分別におおわれていました。資源ゴミ処理の仕組みをはじめ、使用目的別に区分されたゴミを見て、混ぜればただのゴミにすぎないが、分別すれば再資源化につながるということを認識しました。化学薬品、包装材、家具類などは日時などを設定したうえで回収を行っています。その他、生ゴミなどはコンポストに入れ肥料にしたり、土にかえすなど有効に利用され、そこで生じたガスも熱利用されています。中でも、建築の際に出た土などで汚染されているものとは、ゴミと一緒に処理されるのではなく、庭づくりや粘土を採掘した穴を埋めるのに再利用されているそうです。

しかし、近代的で最も優れた装置を使いながらも、問題点は生じてくるそうです。それゆえ、改善をはかる上で常に研究が行われ、最終的には処理できないものをなくそうという目標をもっているとのことでした。共和国の規制を重んじ、常に環境保全を念頭におき、開発に取り組もうとする前向きな考え方にとても共感させられました。日本は先進国でありながら、ゴミ処理場などの整備が十分に設けられていません。こんな中でゴミの減量運動やリサイクル運動などの成果を上げるには時間がかかるかもしれません。しかし、ゴミの清掃事業などは我々住民の生活に最も密着した行政サービスであり、その充実が望まれる時代になっています。この充実を図るためには、行政だけ、住民だけという考えでなく、お互いの協力関係が大切になってくると思います。近い未来、我々の生活にリサイクル運動が拡大、浸透して、ゴミの減量化促進につながっていく事を私は願っています。

## 環境保護の重要性を 子供たちに

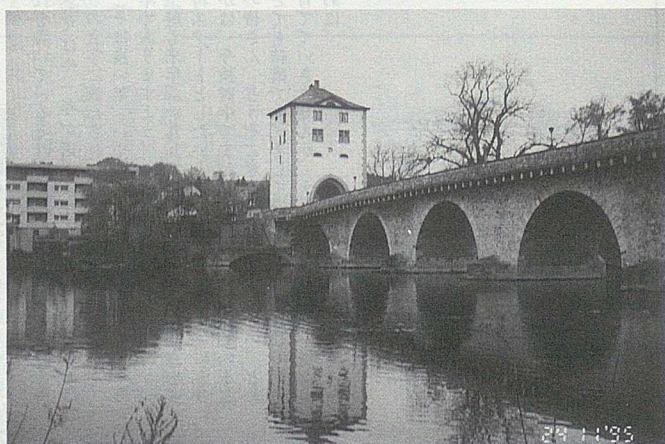
五十野 猛

今回の研修旅行は私にとっては初めての海外旅行でした。そのためあつてか、ドイツで過ごす日々の中で私が目にするもの耳にするものは、とても新鮮で、充実した時間を送ることができました。

ドイツでは環境対策を中心とした研修だったため、私の中で深く印象に残っているのも環境についての事柄です。そのことについて少し書かせてください。

この法律を住民が納得し、行政と一丸となって環境問題に取り組んでいます。今回の研修の目的でもあるゴミのリサイクル問題については、経済の循環を考え、『ゴミをつくらない、もし出る場合は再利用』という目的を持って取り組んでいます。派遣団は、会社グループで行っているゴミ処理場を訪問しました。町の中心から離れた郊外に広々とした施設が設けられていました。事務棟は白い建物で、玄関や窓にはブルーの縁取りをきかせ、清潔感を漂わせています。工場の中を見回ると、働く人たちは比較的若く、ベルトコンベアから流れてくるゴミの分別におおわれていました。資源ゴミ処理の仕組みをはじめ、使用目的別に区分されたゴミを見て、混ぜればただのゴミにすぎないが、分別すれば再資源化につながるということを認識しました。化学薬品、包装材、家具類などは日時などを設定したうえで回収を行っています。その他、生ゴミなどはコンポストに入れ肥料にしたり、土にかえすなど有効に利用され、そこで生じたガスも熱利用されています。中でも、建築の際に出た土などで汚染されているものとは、ゴミと一緒に処理されるのではなく、庭づくりや粘土を採掘した穴を埋めるのに再利用されているそうです。

しかし、近代的で最も優れた装置を使いながらも、問題点は生じてくるそうです。それゆえ、改善をはかる上で常に研究が行われ、最終的には処理できないものをなくそうという目標をもっているとのことでした。共和国の規制を重んじ、常に環境保全を念頭におき、開発に取り組もうとする前向きな考え方にとても共感させられました。日本は先進国でありながら、ゴミ処理場などの整備が十分に設けられていません。こんな中でゴミの減量運動やリサイクル運動などの成果を上げるには時間がかかるかもしれません。しかし、ゴミの清掃事業などは我々住民の生活に最も密着した行政サービスであり、その充実が望まれる時代になっています。この充実を図るためには、行政だけ、住民だけという考えでなく、お互いの協力関係が大切になってくると思います。近い未来、我々の生活にリサイクル運動が拡大、浸透して、ゴミの減量化促進につながっていく事を私は願っています。



ことが少しでもそれに生かしていけたらと思います。

しかし個人の努力には限界があります。お金のかかること、大規模なことは個人で実現するのは無理です。私たちがドイツで見てきたのと同じように、私たちの行政も環境保護に対するさらに積極的な活動を進めてほしいと思います。

最後になりましたが、今回は、海外での研修という、素晴らしい貴重な体験をさせて頂き、本当に感謝しております。ありがとうございました。



# 魅力の村づくり 北浦虹工房

## 14 北浦多菜ブランド(4)

これまで三回にわたって、北浦村産物、特に農産物のブランド化という話をしてきた。それは、特定の産物にブランドをつける方法であり、また北浦村のすべての産物をまとめて北浦村ブランドとする方法であった。そしてこれらのいずれでもない第三のブランド化について前号でふれた。つまり、それぞれの産物に芝居やドラマのように、主役、脇役、道化といった役を与え、個性を引き出し、互いに北浦村の特徴や良さを表現し合うことで北浦多菜ブランドを創っていくということである。それを「装置型ブランド」と名づけた。今回は、それぞれの役割についても一度復習して、装置型ブランドの特徴を探ってみたい。

■それぞれの役割  
舞台の背景(大道具)——北浦村の大自然。

照明・音楽——産物のパッケージなど。  
演出家——農家(生産者)の皆さん。  
主役——北浦村ならではの個性があつて、出荷量も多い農産物。  
脇役——主役に次ぐ出荷量があり、今後の成長も期待される農産物。  
道化(先端)——出荷量も少なく、知名度もまだないが、味よし香りよしで、将来市場に出せば必ず反応があるだろうと思われる農産物。外国からの移入農産物も含む。  
観客——消費者あるいは市場

ざっとこんな配役、役割があつて北浦村農産物のブランド化が進められていく。主役は北浦村劇場の大看板を背負って、市場に正々堂々と売り込む。脇役は、北浦村が多菜の村であることをアピールしながら、その強い個性で北浦村農産物のファンを増やしていく。先端は、未来の成長株になることを夢見ながら、市場の動向を探っていく。先端とはいわば少量精鋭主義の農産物である。舞台での立ち回り、つまりブランド表現は役によって異なる。主役はズバリ「北浦村」かもしれない。脇役は個性に応じて、「新鮮」、「自然」、「健康」、「有機」あるいは「無農薬」。先

端は「食の新しいライフスタイル」やある種の「カッコよさ」を売り物にしてほしい。しかし脇役、先端のいずれにも「北浦村産」の産物であることが誰にでもわかるような仕掛けは必要である。

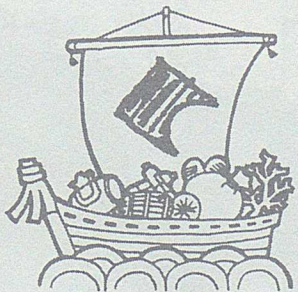
### ■競争共栄のブランド

このように、装置型ブランドではそれぞれの農産物が自らの役割をきちんと果たし、協力し合い、トータルとして北浦多菜ブランドを創り上げていくとするやりかたである。互いの息がピッタリと合っていないければ、芝居も不出来どころか空中分解してしまう。しかし、まったく違う側面もある。

芝居でも、舞台裏では主役争いの激しい競争が繰り広げられているように、装置型の北浦村ブランドでも同じようなことが起こる。それは決して悪いことではない。むしろそれを望み、仕掛けるのがこのブランド化の特徴である。主役はベテランの先輩格だからといって安穩とはしてられない。いつ有力な若手新人が台頭してくるかもしれない。同じ芝居でも脇役が主役を喰うということはしばしばある。主役だからこそ不断の切磋琢磨が求められる。多菜ブランドでも同じこと。一度主役に祭り上げられ、北浦村の大看板を背負っても、脇役や先端がいつ伸びて来るかもわからない。他の劇場(産地)の主役が名を馳せて観客がそちらに行ってしまうこともある。市場が変わった、天候が不順だったと嘆いても結果はなにも出ない。他の産地よりいいものを、脇役なんかには負けるものかと思ふしかない。

そういう競争を北浦村内で生みだしながら、市場では一致協力のもとまりを演出していくのが、この装置型ブランドの特徴である。成長イコール競争とは言わないが、競争は成長にとって欠くことのできない要素である。競争のないところに成長も活性化もない。こんな考え方を農業に採り入れることが絵空ごとではない時代がすでに今来ていると思う。

これを書いている今は十二月の暮です。虹工房を書き始めてはや一年が過ぎようとしています。今年は「農」の文字に表わされたように、大変な年でした。来年こそは良い年、いやしくはなくともせめて変事のない年でありたいです。  
虹工房も来年(一九九六年)からは、少し視点を変えて再スタートしたいと思います。どのように変身するかは、今検討中ですが、読んでいただいている北浦村の皆さん、どうぞご意見をお寄せください。どんなことでも結構です。そして皆さんと一緒にこの虹工房を育てていきたいと思います。大いなる夢を語り、咲かせるために。



# 生涯学習

出愛・ふれ愛・学び愛



## 女たちの言葉…沈黙を破る

落合恵子

……ありがとさん  
ありがとさん  
花が咲いたよ  
わたしも、咲くよ……  
この四行は、現在七十八歳の女性からいただいた手紙に記されているものである。  
戦前から戦中、そして戦後へと大きな農家の、それも十数人の大家族の「嫁」として、彼女の半生は過ぎていった。  
耐えること、受け身であること、従順であること、我慢すること。「嫁」のつとめとして、それらを外側から求められ、強いられてきた日々。そうして、「その家で生きていくためには、求められた役割に順応しなければならぬ」と、自らにかしてきた日々。

そんな日々を、彼女は「咲きたくても、咲けなかった日々」と言う。  
「わたしの中にあって、たくさんの芽はあつたはずですが、それを摘んで、踏みしめたのは、女とは、嫁とは、こうあるべきものという社会にある考え方であり、それを受け入れてしまったわたし自身の弱さでもあつたのです」  
そんな過去と決別した彼女は、いま高らかに宣言する。  
「わたしも、咲くよ」と。  
それは、彼女の、人間宣言。そして人権宣言でもあるだろう。  
道端に咲いた小さな花に「ありがとさん。咲いてくれて、ほんとに、ありがとさん」と声をかけながら、わたしだって咲くんだよ、と自らを励ます彼女が、いる。  
中略

## 学習予定

- 1/20(土) 著者(高見映・ノッポさん)を囲む会  
24(木) パッチワーク講座  
26(金) ヨーガ講座  
26(金) 大正琴講座  
27(土) チャレンジKITAURA(演劇) 母親のためのセミナー & 家庭教育講演会  
31(木) ホームヨーガ講座  
2/ 1(木) 大正琴講座・料理講座  
8(木) 太極拳講座  
9(金) 大正琴講座  
10(土) チャレンジKITAURA(演劇)  
11(日) 平成8年度村内卓球大会  
14(木) パッチワーク講座  
15(木) 太極拳講座・料理講座  
22(木) 太極拳講座  
23(金) 大正琴講座  
24(土) チャレンジKITAURA(演劇)  
25(日) 第21回村内バドミントン大会  
28(木) パッチワーク講座  
29(木) 太極拳講座

## シェクスパ作

# 『マクベス』3月発表

## —チャレンジKITAURA〈演劇〉—

昨年4月から、第2・4土曜日に練習を続けてきた、「チャレンジKITAURA〈演劇〉」が、いよいよ今年3月に文化会館で発表されることとなった。

生涯学習がさげられる昨今、本村にも各種の文化団体が存在し、取り組んでいる人も多いが、この種の試みは珍らしく、その成果が注目されている。

全くの素人集団が取り組んでいるわけで、練習を継続するには紆余曲折もあったが、晴れて発表にまでこぎつけたわけである。

発表には、鉾田一高「演劇部」の参加も予定されており、多くの来場者を期待しております。

なお、観るより舞台上がりたいという方がおりましたら、教育委員会まで。

— 電話(5)2907 —



## 大正ロマンを懐かしむ

### 新規『大正琴講座』

その時代を生きた人でなくてもその音色に心をひかれる方は多いでしょう。

毎月、第二・四金曜日の夜「大正琴」をかかえて講座生が集まる。

大正琴の種類と各部の呼び方、楽譜と記号、音の合わせ方、楽器の置き方、正しい姿勢、右手の弾き方、左手の指使いと進み、いよいよ演奏の練習。

講座開始から、四回目を迎えた今夜は、定番「さくらさくら」荒城の月、館内に懐かしい音色、そしてメロディーが響く。

講座生は二十五名、ほとんどの人が「大正琴」を購入し取り組むという熱の入れように担当者も感心している。

講座は第十回まで予定されており、終了する頃には、名演奏家が誕生するのは間違いない。



| 氏 名     | 年齢 | 住 所       | 電 話    | 担 当 地 区 |
|---------|----|-----------|--------|---------|
| 小沼和夫    | 62 | 吉 川 1,028 | 5-0929 | 吉 川     |
| 高橋善一    | 70 | 繁 昌 587   | 5-2798 | 繁 昌 東 部 |
| 本戸さく子   | 58 | 繁 昌 691-1 | 5-2597 | 繁 昌 西 部 |
| 大和田正子   | 55 | 中 根 317   | 5-0872 | 中 根     |
| 辺 田 つ や | 61 | 山 田 1,087 | 5-0726 | 山 田 一 区 |
| 勢 司 得 雄 | 61 | 山 田 1,218 | 5-2109 | 山 田 二 区 |
| 根本和代    | 60 | 山 田 2,009 | 5-3241 | 山 田 三 区 |
| 大原久明    | 62 | 山 田 1,314 | 5-0633 | 山 田 四 区 |
| 平間章司    | 71 | 行 戸 704   | 5-0234 | 行 戸     |
| 根本一彦    | 58 | 小 幡 603   | 5-0163 | 小 幡 北 部 |
| 武田一枝    | 57 | 小 幡 915-1 | 5-0167 | 小 幡 南 部 |
| 石橋辰夫    | 67 | 南高岡 158-1 | 5-0066 | 南 高 岡   |
| 石橋勝子    | 56 | 北高岡 170-1 | 5-0078 | 北 高 岡   |
| 内田平男    | 72 | 両 宿 107   | 5-2417 | 両 宿     |
| 平野次男    | 67 | 内 宿 59    | 5-1425 | 内 宿     |
| 成田康雄    | 65 | 成 田 814   | 5-1156 | 成 田     |
| 森崎恵美子   | 58 | 三 和 660   | 5-2711 | 三 和     |
| 東野サカエ   | 66 | 長野江 520   | 5-2887 | 長 野 江   |
| 伊藤正孝    | 53 | 次 木 311   | 5-1627 | 次 木     |
| 男庭 誠    | 59 | 小 貫 276   | 5-1181 | 小 貫 下   |
| 原 正 己   | 61 | 小 貫 1,115 | 5-2103 | 小 貫 上   |
| 酒井美智子   | 57 | 山 田 1,286 | 5-2876 | 主任児童委員  |
| 成田ひとみ   | 45 | 成 田 929   | 5-1450 | 主任児童委員  |

十二月一日付けで民生委員、児童委員の一斉改選がありました。

北浦村では三名の方が変わられ、再任者及び主任児童委員を含め二十三名です。これからの三年間それぞれの担当地域で、社会福祉の精神をもって自主的に福祉の増進にご協力をいただくことになりました。

- 常に調査を行い、生活状態を明らかにする。
- 保護を要する者を適切に保護指導をする。
- 社会福祉施設と密接に連絡し、その機能を助ける。
- 福祉事務所等、関係行政機関の業務に協力する。
- 必要に応じて生活の指導を行う。

|                                                                                                                                                            |                                                                                      |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>国保</b><br><b>一口メモ</b>                                                                                                                                   | <b>国保には</b><br><b>どんな人が加入するの？</b>                                                    |
| <p>国保の加入者の資格は、職場の健康保険に加入している人や生活保護を受けている人などを除いて、その市町村に住所があるかないかで決まります。</p> <p>〔一人ひとりが被保険者〕</p> <p>国保では未成年者や幼児あるいは一家の世帯主も、家族みんなが平等に加入しますので一人ひとりが被保険者です。</p> | <p>〔加入は世帯ごとに〕</p> <p>一人ひとりが被保険者でも加入は世帯ごとに行います。加入手続きは世帯主がまとめて行い、保険証は一世帯に1枚交付されます。</p> |

北浦村芸術祭参加

大根に味のしみ込む夕茜  
小学校いづも声して赤とんぼ  
指先も編棒の先も日詰る  
酔えば出る夫の主張や夜の長し  
紅葉に一期一会の京の旅  
この時ぞ大声出して秋まつり  
減つてゆくばかりの農家そばの花  
庭石にとまどいがちな秋の蝶  
這いのぼり願ひ届かぬからす瓜  
母の声遠くに在りて木の実落つ  
紫蘇の実に触れて香をもらいけり  
菊花展いでて露地裏七味売り  
秋桜に風定まらぬ事ばかり  
ひざ小憎だけ覚めている夜長かな  
むらおこし秋の夜長を育てけり  
手で救う溺れかけたる赤トンボ  
休耕地黄一色にして泡立草  
舌出して寝ている猫や鰯雲  
涙眠の仔牛を舐める秋の蠅  
幸多き友と出逢し文化の日  
はればれと殊に色濃き野路の菊  
水墨の墨の濃薄冬近し  
初時雨父の長ぐつ三年忌  
菊人形ときには怒る目とも合う  
蓮根掘るこめかみ深くひきしめて  
蓮掘つて噂ばかりを太らせる  
蓮掘つて泥の如くにねてしまふ

| 事業名       | 月 日      | 受付時間        | 場 所          | 対 象                |
|-----------|----------|-------------|--------------|--------------------|
| 1 歳 半 健 診 | 1 月 24 日 | PM1:00～1:30 | 母子健康<br>センター | H6.3.14～<br>7.24生れ |
| 一般健康相談    | 26 日     | PM1:30～2:30 | 〃            | 一 般                |
| 母子保健教室    | 2 月 6 日  | PM1:00～1:30 | 〃            | 妊 婦                |
| 乳 児 健 診   | 9 日      | PM1:30～2:30 | 〃            | H7.7.1～<br>10.31生れ |
| 三 種 混 合   | 14 日     | PM1:30～2:30 | 〃            | H4.6.1～<br>5.31生れ  |
| 虫歯予防教室    | 15 日     | AM9:00～9:30 | 中央公民館        | 乳幼児のいる家庭<br>(祖父母等) |

緑黄色野菜を毎日よく  
食べている人は、あら  
ゆるがんにかかる率が  
低い！

野菜は、人参やほうれん草などの色の濃い緑黄色野菜と、色の淡い、白菜やきゃべつなどの淡色野菜に大別されます。どの野菜にもがんを予防する働きがありますが、緑黄色野菜は特に「ビタミンAとビタミンC、カロチン、食物繊維が豊富で、ビタミンEやミネラルも含む」がん予防品のチャンピオンです。

がんを予防するカロチンには、アルファ・ベータ・ガンマーなどさまざまな種類があります。その中で、緑黄色野菜に含まれているカロチンは六十種類にもおよび、ベータ以外の、たとえばトマトに含まれているリコピンというカロチンにも、がん予防効果があることがわかっています。

食生活を調べた研究によって、緑黄色野菜を毎日取った人と取らない人とは、人口十万人あたりの標準化がん死亡率に大きな差がつくことがわかっています。

一日に必要とされる緑黄色野菜の量は、一〇〇gです。ほうれん草なら1/2束、人参は1/3本、ピーマン四個、かぼちゃなら二、三切れが一〇〇gの目安ですが、一種類の野菜で取るのではなく、数種類の野菜を組み合わせると一日の必要量を取るようになります。緑黄色野菜の場合、特に青菜はカロリが低いので、沢山食べても太る心配がありません。

\*\* 塩辛いものは少なめに  
 熱いものはさましてから\*\*  
 — 胃にやさしい牛乳とビタミン豊富な  
 緑黄色野菜を薄味で —

— (4人分) —

|      |       |
|------|-------|
| かぼちゃ | 200 g |
| 青じそ  | 4枚    |
| わかめ  | 10 g  |
| だし汁  | 400cc |
| 牛乳   | 200cc |
| みそ   | 40 g  |

**作り方**

① かぼちゃは種を取り、1 cm 厚さのいちょう切りにする。わかめは洗って戻し、1 cm に切る。青じそはせん切りにする。

② 鍋に分量のだし汁とかぼちゃを入れ、柔らかく煮て牛乳を加え、みそとわかめを入れる。沸騰直前に火を止め、椀に注いで青じそを散らす。

12



## ふれあいの郷体育施設の利用が簡単に (土・日・祝祭日の昼間は当日申込み、即利用できます)

いつでも利用できるようにと皆さんの要望に応じて、土・日・祝祭日の昼間は、施設が他に利用されていない場合は、当日申込みをすれば、即利用できるようになりました。詳しくは下記のとおりです。

### ■利用手続き

- 利用申込み(予約)は、利用2か月前から3日前までです。
- 土・日・祝祭日の昼間、午前9時～午後5時までに限り、施設が他に利用されていない場合は当日の利用申込みを受付します。
- 電話での仮申込みも受付します。その場合、なるべく早く来館して利用手続きを済ませてください。

### ■管理人が利用申込みを受付します

- 土・日・祝祭日の昼間、午前8時30分～午後5時までと貸出予約のある夜間は、常時管理人が北浦村体育館事務室に待機しています。管理人も利用申込みを受付します。

### ■利用時間

- 休館日を除いた毎日午前9時～午後10時まで。

### ■休館日

- 毎週月曜日
- 年末年始(12月28日～1月4日まで)

### ■その他

- 平常の施設利用受付は午前8時30分～12時15分、午後1時～5時15分までです。
- 利用料金等、詳しい問い合わせは北浦村体育館(☎5-2120)まで。

## 相続登記無料相談

司法書士会では、2月1日から29日までの1か月間を「相続登記はお済みですか月間」として、相続登記に関する無料相談を行います。

- 期間 2月1日～29日(1か月間)
- 相談内容 相続登記に関する相談
- 相談所 最寄りの司法書士事務所
- その他 相談は無料です。

## 茨城県の最低賃金

茨城県最低賃金 1日 4,739円  
発効年月日 7.10.1 1時間 593円

| 産業別最低賃金   | 1日     | 1時間  | 発効年月日   |
|-----------|--------|------|---------|
| 鉄鋼業       | 5,460円 | 683円 | 7.12.21 |
| 一般機械器具製造業 | 5,408円 | 676円 | 7.12.21 |
| 電気機械器具製造業 | 5,392円 | 674円 | 7.12.21 |
| 精密機械器具製造業 | 5,392円 | 674円 | 7.12.21 |
| 各種商品小売業   | 5,230円 | 655円 | 7.12.27 |

## 新規学卒者合同面接会

平成8年3月に大学、短大、専修学校を卒業予定で、就職の決定していない学生を対象に、新規学卒者合同面接会を実施します。

- 〔水戸会場〕
- 日時 2月6日(火)午後1時～午後4時まで。
- 場所 サンシャイン常陽(水戸市白梅2-3-86)
- 〔土浦会場〕
- 日時 2月8日(木)午後1時～午後4時まで。
- 場所 土浦第一ホテル(土浦市港町1-8-26)

### ※その他

- 参加企業は60社予定。
- 企業との面接になりますので、履歴書を複数用意してください。
- 駐車場のスペースが少ないので、車での来場は遠慮願います。
- 詳しい問い合わせは茨城県商工労働部職業安定課(☎029-221-8111)又は、最寄りのハローワーク(公共職業安定所)へ。

## 横浜ツアー参加者募集 《ナイトクルーズ》

- 日時 3月9日(土)・10日(日) 1泊2日
- 宿泊場所 横浜ロイヤルパークホテルニッコー(☎045-221-1111)
- 参加資格
  - ・男性…村内在住の未婚者
  - ・女性…村内外を問わず未婚者
- 参加負担金 一人 19,000円(男女とも)
- 募集人員 男10名 女10名
- コース
  - 〔9日〕・恵比寿ガーデンプレイス
  - ・新横浜ラーメン博物館
  - ・ナイトクルーズ
  - 〔10日〕・八景島シーパラダイス
- 申込方法 2月22日(木)までに北浦村農業委員会へ申し込んでください。定員になりしだい申し込みを締切ります。詳しくは北浦村農業委員会(☎5-2111)まで。

## 成人特例選抜生徒募集 鉾田一高定時制

成人特例選抜とは、高校を卒業したいと思いながら、色々な事情で成人になるまで高校の教育を受けられなかった方々のための制度です。

夜間部ですので、働きながら学ぶことができ、4年間で高校卒業の資格を取得できます。

- 応募資格 平成8年4月1日現在満20歳以上の者。
- 願書提出期間 2月3日(土)～2月6日(火)
- 作文・面接 3月6日(水)
- 問い合わせ 茨城県立鉾田第一高等学校(〒311-15 鹿島郡鉾田町鉾田1090-2 ☎3-2161)まで。

## 平成7年度国勢調査速報

- 茨城県の総人口 2,955,512人
- 北浦村の総人口 10,921人
- 〃 総世帯数 2,561世帯
- ※前回の国勢調査(平成2年)と比較すると、北浦村は人口で186人の減、世帯数で87世帯の増となっております。尚、後日総務庁統計局で公表する数字と異なる場合があります。